



殿もお好き
でしょ？
先程庭で
見つけました。
二匹もいたんですよ。

や、猫ではないか
彦子の良い相手
じゃな。

よう知っておるな。
どれ、
こっちへおいで



何のこと？
ね、静かに
しないと。

あのお殿様、
久居藩の
初代藩主の
藤堂高通公やに！
ほれ！さつき
お店の前で
話したやろ？



こっちの猫は
ぼっさいが愛嬌が…
あるな

デレ…

割と
カッコイイ。
イケメン
じゃん。



ひとなう
人懐こい猫じゃ

コラム 1
飛地の多い久居藩

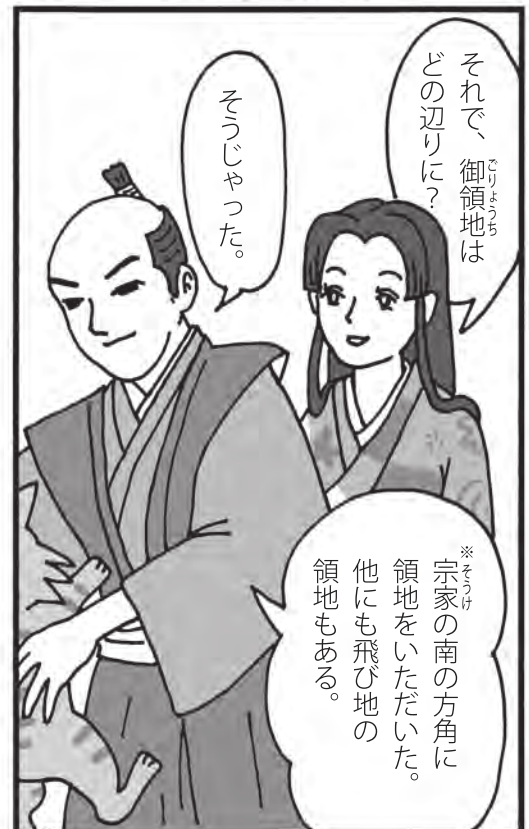
高通公は初代藩主として5万石の領地を与えられましたが、のちにその弟、2代藩主高堅公の折に、3千石が加わり、久居藩の領地は5万3千石となりました。

領地には飛地も多く、現在の三重県内では津市のほかに四日市市、亀山市、鈴鹿市に及び、県外では京都府、奈良県にも合わせて1万石の領地がありました。

〈久居藩領分布図（三重県内）〉

■ 久居藩領

桑名市
四日市市
鈴鹿市
亀山市
久居城下
津市
松阪市
伊賀市
伊勢市



そっじゃった。

それで、御領地は
どの辺りに？

※そっけ
宗家の南の方角に
領地をいただいた。
他にも飛び地の
領地もある。



殿が
藩主様に
…。

つれいっ！

ではお城も？

わしは藩主と
いっても
あくまで
※しほん
支藩の主じゃ。

すでに宗家に
城があるから
わしは
あのような城は
持てん。

…せっかく
藩主になられ
ましたのに

とにかく
我ら藤堂家は、
かねてより願ひ出て
いたとおりに無事に
分家が認められて
ほっとしておる
ところじゃ。

世継ぎが
ないと、
普通は
取り潰しで
お家断絶。

幕府は我ら大名に
力を持たせないために
一国に城は一つと
決めているんじゃ。

そうならぬように、
父上がわしを分家
することに決めたのだ。
万一宗家に世継ぎの
ないときは、
わしの家から養子を
出せばよいと。

どこの藩も
同じ事じゃが、
分家するには
幕府の許可が要る。
そのお許しを
いただくのが
なかなか
難儀でのう。
外様大名の
分際ではかなり
難しいんじゃが…。

そつやつて藤堂家を
繋いでゆける。
お家断絶を逃れる知恵じゃ。

コラム 2

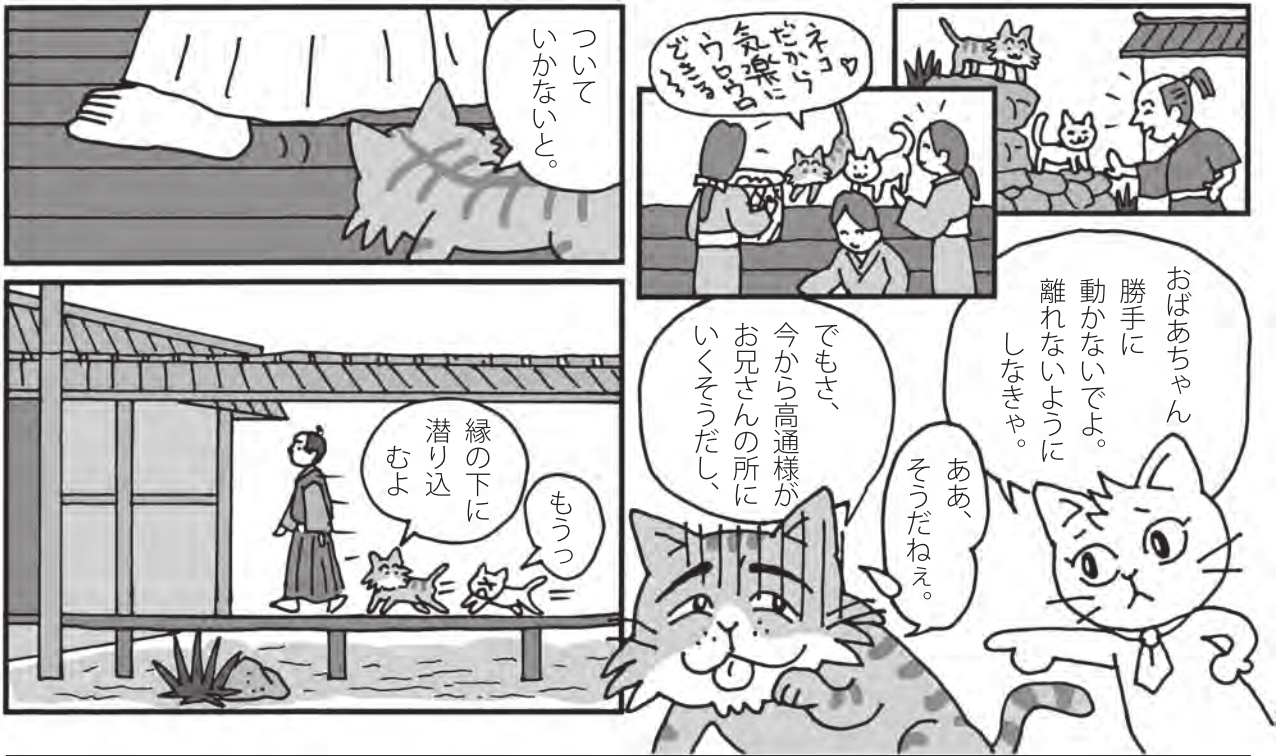
大名の種類

- 親藩…將軍家の親族
- 譜代大名…関ヶ原の戦い以前から
代々徳川家の家来であった大名
- 外様大名…それ以外の大名

老中などの幕府の「要職」につくのは主に譜代大名で、軍事上の要衝や江戸の周辺に配置されました。一方で、外様大名は幕政に参加させられず、遠方に領地が与えられました。

※支藩…本家(宗家)から分かれた者が藩主である藩





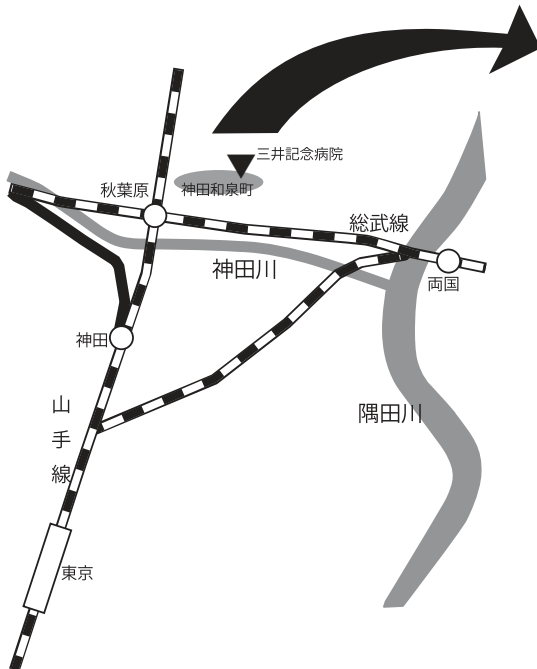
コラム3

津藩と久居藩の 江戸屋敷

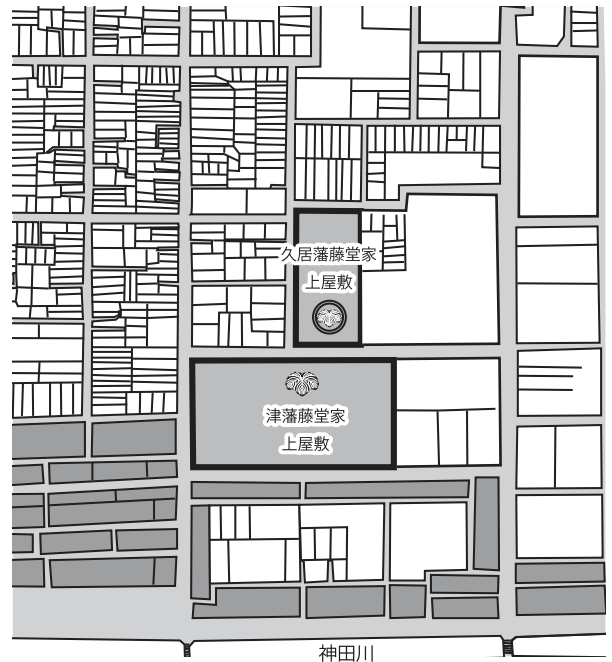
藤堂津藩の藩主が江戸で暮らしていた上屋敷は、現在の千代田区神田和泉町（現・三井記念病院付近）にありました。和泉町という町名は、藤堂津藩主が代々、和泉守を名乗った事に由来しています。

久居藩立藩後は津藩上屋敷の向かい側にあった中屋敷が久居藩の上屋敷となり、高通公をはじめ代々の久居藩主が江戸滞在中に暮らしました。

〈現在の東京〉



〈当時の町並み〉





本日は、支藩の家臣団を決める。

ここどこ？

高通の父 藤堂高次

高通の兄 藤堂高久

あそこにいるのは津藩第二代藩主の高次公と、三代藩主の高久公だよ。

高通公のお父さんとお兄さん。

は？ 誰？



それから、伊賀の藤堂源助を家老に任ずる。

この者は高虎公の甥にあたる。最も信頼出来る人物じゃ。

承知いたしました。



父上と相談して決めたのだが

そなたの藩に津、伊賀、江戸付けの家臣から選抜して120名の家臣を授ける。



本家からは、年貢を取り立てる職についておる者や、藩財政に長けた者を遣わす。これから役に立つだろう。

これからも、よろしく頼むぞ。

そこまでお考えいただきありがとうございます。ごさいます。

なに、分家とはいえ、同じ藤堂家じゃ。本家が困った折にはそちらに助けてもらわねばならん。

兄上！

それにしても、無事に分家が認められて良かった。これも皆、今までの根回しのおかげというもの。

根回しとは？

わしも高久も、幕府の重臣の娘を正妻に迎えておる。そのつても使いつつ、老中たちには日頃ご機嫌伺いもしておったしな。

高虎公の功績により、我らは外様大名ながら譜代大名格扱いだが、しかし、

それでもいつ改易かいぎとなるかも知れぬ。お家を守るため、幕府から目をつけられるような事は避けなければ。

幕府の命令でお家を取り潰しになる事よ。悪い事をしたり、世継ぎがない時そつなるの。

取り潰されたらご領地にいられなくなるから、それはそれは大変な事やに。

なーんか、気弱なお殿様。ねえ、改易つてなに？

へえええええ！

そのようなご苦労が...

そなたは学問はよく出来るが、その呑気のんきな所が心配じゃ。

しかしこれからはそなたも藩主として、しっかりせねばいかん。特に、分家は本家の津藩を支える役割がある。我らは同じ藤堂家として一体である。

何事も本家と相談してから事を進めるように。

しかと肝きんに銘めいじます。

確かに、久居藩は重要な事は本家に相談してたんよ。こついついきさつがあつたんやねえ。

頼りがいのありそうなお兄さんやね。

そして年が明け

寛文十年(1670年)一月十六日

高通公は家臣の西野小左衛門を屋敷に呼んだ



殿、猫が。

よいよい、
気にするな。
それより、
いよいよ
築城の件、
幕府の
許可が
下りた。



高通の側近
西野小左衛門

ははっ。

西野、
そちらは
この書状を
持って、
急ぎ国元へ
帰って
もらいたい。

わしの希望を
細かく書いてある。
あとは家老の藤堂源助を
中心に着手せよ。
設計と工事責任者には
軍学に通じた
植木升安
を指名する。



新しく造る町は、
後世に恥じない
安心して住みやすい
町にしたいと思う。
そのところを
皆で十分に
考えて欲しい。



承知いたし
ました。
直ちに国元へ
発ちます。



おばあちゃん、
どうしたん？

ええ！
ええっ？

あの人が
ついていたら、
久居に行ける
じゃない。
今から久居藩の
城下町造りが
始まるのに、
こんな所で
のんびり待つて
られないよ！



では